

藤崎小学校



く	こ	と	で	す。	バ	リ	ア	フ	リ	は	お			
年	寄	り	や	体	の	不	自	由	な	人	を	思	い	や
？	て	で	き	る	も	の	で	す。	病	院	の	ス	ロ	
！	フ	や	、	ノ	ン	ス	テ	ッ	ア	バ	ス	な	ど	は
そ	の	例	で	す	が	、	ま	だ	ま	だ	不	十	分	だ
と	言	え	る	の	で	は	な	い	で	し	よ	う	か。	
学	校	で	お	年	寄	り	に	な	る	体	験	を	し	
た	と	き	に	腕	や	足	に	重	り	を	つ	け		
視	野	が	狭	く	な	る	ゴ	！	グ	ル	を	か	け	て
歩	き	ま	し	た。	助	け	て	く	み	る	仲	間	が	
い	る	の	で	よ	か	、	た	の	で	す	が	こ	う	
い	、	た	状	況	で	外	へ	出	る	と	い	う	の	は
と	て	も	大	変	な	こ	と	だ	と	思	い	ま	し	た。
そ	う	い	う	大	変	さ	を	少	し	で	も	減	ら	す
こ	と	が	で	き	る	よ	う	に	、	バ	リ	ア	フ	リ

ち	ろ	ん	大	切	で	す	が	、	そ	れ	以	前	に	一	は	あ	り	ま	せ	ん	。	ハ	リ	ア	フ	リ	一	は	も	わ	た	し	に	と	っ	て	放	っ	て	お	け	る	話	で	ま	す	が	、	体	の	不	自	由	な	祖	父	の	い	る	り	の	心	が	欠	け	て	い	る	か	ら	だ	と	言	え	こ	と	が	あ	り	ま	す	。	そ	れ	は	、	思	い	や	い	る	人	の	話	を	見	た	り	聞	い	た	り	す	る	寄	り	に	対	し	て	残	念	な	行	動	を	と	っ	て	ま	じ	き	テ	シ	ビ	ヤ	ニ	ユ	ー	ス	で	、	お	年	い	や	り	を	も	つ	と	い	う	こ	と	で	す	。	と	ニ	っ	め	は	、	お	年	寄	り	に	対	す	る	思	な	も	の	に	な	る	と	考	え	ま	す	。				た	ち	に	と	っ	て	も	、	福	祉	が	よ	り	身	近	い	ま	す	。	そ	う	す	る	こ	と	で	、	わ	た	し	一	の	考	え	が	当	た	り	前	に	な	れ	ば	と	思
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

て	あ	げ	た	り	、	食	器	を	運	ん	で	あ	げ	た	か	ら	帰	っ	て	き	た	と	き	に	荷	物	を	持	っ	能	性	が	あ	る	か	ら	で	す	。	他	に	も	、	外	と	声	を	か	け	ま	す	。	倒	れ	て	し	ま	う	可	「	横	に	な	っ	た	方	が	い	い	よ	」				り	ま	す	。	わ	た	し	は	、							父	は	苦	し	そ	う	に	せ	ま	こ	む	こ	と	が	あ	る	と	い	う	こ	と	で	す	。	と	き	と	き	、	祖	と	が	あ	り	ま	す	。	そ	れ	は	、	声	を	か	け	し	や	家	族	の	み	ん	な	で	支	え	て	い	る	こ	祖	父	が	病	気	に	な	っ	て	か	ら	、	わ	た	ら	で	す	。											ご	せ	る	環	境	に	は	な	ら	な	い	と	思	う	か	と	、	お	年	寄	り	に	と	っ	て	安	心	し	て	過	人	一	人	が	思	い	や	り	の	心	を	も	た	な	い
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]

こ	と	に	し	ま	し	た	。	そ	の	結	果	「	医	療
に	関	係	す	る	こ	と	」	自	分	達	に	で	き	
る	火	災	防	止	」	犯	罪	に	ま	き	こ	ま	れ	
な	い	た	め	に	」	い	う	三	つ	の	意	見	が	
出	ま	し	た	。										
	福	祉	に	関	係	す	る	「	医	療	」	に	つ	い
て	考	え	た	こ	と	を	、	こ	の	作	文	に	ま	と
め	た	い	と	思	い	ま	す	。						
	ま	ず	、	最	初	に	グ	ル	ー	プ	の	み	ん	な
と	話	し	合	っ	た	「	福	祉	」	に	関	す	る	意
見	を	ぼ	く	な	り	に	ま	と	め	る	と	、	次	の
よ	う	に	な	り	ま	す	。	「	福	祉	」	と	「	医
療	」	に	つ	い	て	考	え	て	み	る	と	、	ポ	イ
ン	ト	は	三	つ	あ	る	と	思	い	ま	す	。	一	つ
目	は	、	大	き	な	総	合	病	院	を	建	て	る	こ

と	で	す。	病	気	の	人	や、	け	が	を	し	た	と	で	す。	同	じ	病	気	の	人	や、	同	じ				
人、	お	年	寄	り	が	自	分	の	健	康	を	回	復	さ	せ	る	た	め	に、	治	療	が	ス	ム	ー	ズ	に	
進	め	ら	れ	る	よ	う	な	病	院	で	す。	例	え	ば、	病	室	一	つ	一	つ	を	広	く	し	た	り、		
階	段	を	減	ら	し	て	や	る	や	か	な	坂	を	作	っ	た	り	い	ろ	い	ろ	な	専	門	の	先	生	が
い	た	り	す	る	こ	と	で、	ゆ	っ	た	り	と	し	た	気	持	ち	で	治	療	で	き	る	と	考	え	ま	し
た。														二	つ	目	は、	庭	や	ホ	ー	ル	を	作	り	入		
	院	し	て	い	る	人	達	が、	お	し	べ	り	し	た	り、	物	を	作	っ	て	交	換	し	た	り、	ゲ		
	ム	を	し	た	り	で	き	る	場	所	を	設	け	る		こ	と	で	す。	同	じ	病	気	の	人	や、	同	じ

年	の	人	同	士	は、	話	も	合	う	だ	ろ	う	し	病	気	を	治	す	た	め	の	エ	夫	や	ア	イ	デ	ア
の	情	報	交	換	も	で	き	る	と	思	い	ま	す。		三	つ	目	は、	治	療	費	の	こ	と	を	考	え	
ま	し	た。	お	年	寄	り	の	方	は、	体	調	を	く	ず	し	た	り、	け	が	を	し	た	り	し	て	働		
け	な	く	な	る	こ	と	が	多	い	と	思	い	ま	す	中	に	は、	一	人	で	暮	ら	し	て	い	る	方	も
い	ら	っ	し	る	と	思	い	ま	す。	そ	う	す	る	と、	治	療	費	を	払	う	の	は	難	し	い	の		
で	は	な	い	で	し	よ	う	か。	で	す	か	ら、	治	療	費	を	無	料	に	し	た	い	と	い	う	考	え	
が	う	が	ん	た	の	で	す。							さ	て、	ぼ	く	達	が	考	え	た	理	想	的	な		
総	合	病	院	を	建	て	る	の	は、	建	設	費	の															

ことや病院で働く人のお給料のこと
 とを考えるとは、すごく大変なこと
 だということは分かります。でも
 福祉に重点を置くと、こんな夢の
 ような病院があつたらいいなと考
 えて、提案することも意味のある
 ことのような気がします。
 大きな総合病院をお年寄りがた
 くさん住んでいる所に建てることよ
 いと思います。空気がすんでいて
 景色のよい所、散歩が楽しめる花
 が咲いている道や広場がある所、
 そんな所に病院があつたら病気は
 すぐ治るような気がしてきます。

看護師さんがいると、気持ちも明
 るくなると思います。人と接する
 ことによつて回復力が増えるので
 はないかと思ひます。
 今、ぼく達は社会で政治のこと
 について学び始めました。国民み
 んなで国にうつたえることが、政
 治を動かすということが少しだけ
 分かつてきました。
 これから高齢者が増える中で、
 ぼく達が考えていかななくてはなら
 ないこと、若者みんなで力を合わ
 せることなどを真剣に考えていき
 たいと思ひました。自分のことだ
 けでなく、周りの人のことも考え

尾崎	斐南
----	----

あ	を	遣		験	り	品	「	「	っ	買
な	知	て	体	を	し	や	だ	ど	た	い
る	り	作	の	し	ま	備	れ	う	時	物
ほ	ま	ら	不	た	す	え	が	や	に	行
ど	し	れ	自	こ	。み	ら	使	っ	こ	行
と	た	た	由	と	な	れ	の	て	れ	っ
思	。私	道	な	が	さん	て	か	使	は	た
っ	が	具	人	あ	も	い	な	う	、	時
た	特	だ	や	り	そ	る	？	物	何	や
物	に	と	お	ま	ん	物	」	なん	だ	、
に	便	い	年	せ	な	を	思	だ	ろ	病
つ	利	う	寄	ん	な	見	う	う	う	院
い	だ	こ	りを	か	経	か	商	？	？	へ
て	な	と	気	？		け			」	行

まず、一番身近にあるのが手す

リです。階段やろう下のあちこちに取リ付けられているのを見かけます。このごろは、トイレやお風呂などにも手すりがあります。足腰が弱くなったり、けがをしてうまく歩けない人にとっては、とても便利なものだと思います。安全に楽に生活できます。私でも、疲れた時に思わず手すりを使って階段を上がることがあります。

次はスロープです。初め見た時小さなすべり台みたいだなあと思いました。スロープは入口などに

設置してあり、段差をなくしてあ
 るので段でつまづくことがあります
 せん。車イスを使う人やお年寄り
 の方がスムーズに上り下りでき
 ます。スロープは普通の人も利用
 できることに、みなさんは気がつ
 いているでしょう？重い荷物や
 一度にたくさん物を運ぶ時、台
 車に乗せて運んでいる場面を見た
 ことがありませんか？スロープは
 バリアフリーで障害のある人やお
 年寄りの方だけのものではありま
 せん。私達の生活にもすごく役立
 っています。

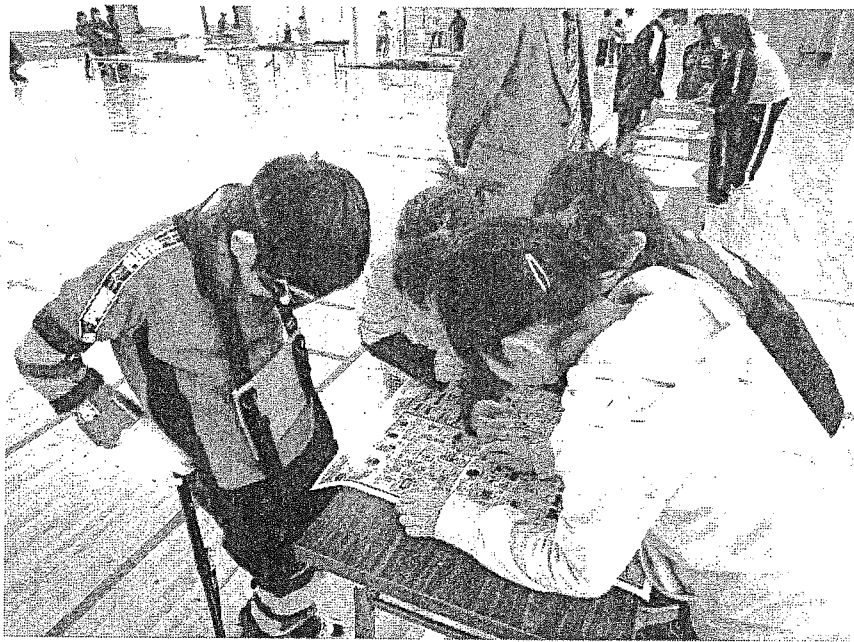
三つ目は、優先席です。優先席

は電車やバスの座席の後ろにマ
 クがあるのので気づいている人も多
 いと思います。お年寄りがつえを
 ついているマーク、小さい子をつ
 れているお母さんのマーク、妊婦
 さんのマークなどが座席の後ろの
 窓についています。インターネッ
 トで調べてみたら、札幌市に「専
 用席」の他に「おもいやソゾー
 ン」というのを設けているそうで
 す。車いすのまま乗れすように広
 いスペースをとっていたり、優先
 席と他の席の色を変えたりする工
 夫をしているということが分かり
 ました。

私	の	住	ん	で	い	る	地	域	で	は	、	電	車
や	バ	ス	よ	り	、	自	家	用	車	で	出	か	け
こ	と	が	多	い	と	思	い	ま	す	。席	を	ゆ	ず
っ	て	あ	げ	る	と	か	、	混	ん	で	い	て	も
先	席	を	あ	け	て	お	く	と	か	、	そ	う	い
意	識	を	持	つ	こ	と	は	少	な	い	の	で	す
マ	ー	ケ	ッ	ト	や	デ	パ	ー	ト	の	駐	車	場
は	、	車	イ	ス	の	マ	ー	ク	が	つ	い	た	ス
ー	ス	が	お	店	の	入	口	近	く	に	あ	り	ま
母	や	父	は	、	絶	対	マ	ー	ク	の	つ	い	た
に	は	車	を	と	め	ま	せ	ん	。み	ん	な	が	、
そ	の	地	域	に	あ	っ	た	思	い	や	り	を	だ
か	の	た	め	に	し	て	い	る	よ	う	に	思	い
し	た	。											
最	後	に	、										
イ	ン	タ	ー	ネ	ッ								
ト	で	福	祉										

に	つ	い	て	調	べ	て	い	た	ら	、	こ	れ	は
利	だ	と	思	う	車	を	発	見	し	ま	し	た	。
れ	は	、	介	護	タ	ク	シ	ー	で	す	。デ	イ	ー
サ	ー	ビ	ス	に	通	っ	て	い	る	近	所	の	お
寄	り	が	マ	イ	ク	ロ	バ	ス	に	、	そ	の	ま
車	イ	ス	で	乗	り	込	む	の	を	見	た	こ	と
あ	り	ま	す	が	、	タ	ク	シ	ー	も	車	イ	ス
ま	ま	乗	れ	る	の	が	あ	る	と	は	知	り	ま
ん	で	し	た	。	車	イ	ス	を	利	用	し	て	い
人	は	高	齢	者	だ	け	で	は	あ	り	ま	せ	ん
若	い	人	で	も	、	け	が	を	し	た	り	病	気
な	っ	て	い	た	り	し	て	、	車	イ	ス	の	生
を	し	て	い	る	人	が	い	ま	す	。	そ	う	い
人	が	、	買	い	物	や	仕	事	に	行	く	時	に
介	護	タ	ク	シ	ー	が	役	立	つ	と	思	い	ま

た。	わ	ざ	わ	ざ	車	イ	ス	か	ら	降	り	な	く
も	車	イ	ス	の	ま	ま	車	に	乗	れ	る	の	
で	体	へ	の	負	担	が	少	な	く	な	る	と	思
い	ま	す。											
	い	ろ	ん	な	人	が		楽	し	く	生	活	し
	い	く	た	め	に		自	分	の	都	合	だ	け
	を	考	え	る	だ	け	で	な	く		他	の	人
	の	こ	と	を									
	考	え	る	こ	と	が	大	切	だ	と	思	い	ま
	す。												
	そ	れ	が	福	祉	の	充	実	し	た	社	会	を
	作	る											
	考	え	方	だ	と	思	い	ま	す。		い	ろ	ん
	な	人											
	の	意	見	を	み	ん	な	づ	考	え	て	い	け
	た	ら											
	い	い	な	あ	と	思	い	ま	す。		今	あ	る
	道	具											
	に	も											
	と	工	夫	を	加	え	て						
	よ	り											
	使	い	や	す	く	て		便	利	に	し	て	い
	ま	た											
	い	で	す。										



[illegible]

付	け	て、	自	分	た	ち	が	お	年	寄	り	と	同
い	感	じ	に	な	る	よ	う	に	し	ま	し	た。	
ま	ず、	視	野	を	せ	ま	く	す	る	眼	鏡	を	
っ	け	ま	し	た。	周	り	が	少	し	し	か	見	え
な	く	な	り、	物	も	は	っ	き	り	と	見	え	ず
ぼ	や	け	て	見	え	ま	し	た。	こ	れ	は、	か	
な	り	大	変	だ	と	思	い	ま	し	た。			
	次	は、	手	袋	を	何	重	に	も	重	ね	て、	
物	を	っ	か	む	と	い	う	体	験	を	し	ま	し
あ	め	の	袋	を	開	け	る	の	も、	手	袋	の	せ
い	で	上	手	に	開	け	ら	れ	ま	せ	ん。	お	は
し	を	持	っ	て	豆	を	っ	か	も	う	と	し	ま
た	が、	一	っ	っ	か	む	の	に	も	苦	労	し	ま
し	た。	手	を	自	由	に	使	え	な	い	の	が	こ
ん	な	に	大	変	な	の	か	と	思	い	ま	し	た。

お	年	寄	り	は、	自	分	た	ち	の	前	で	は	ふ
っ	う	に	や	っ	て	い	る	よ	う	に	見	え	る
ど、	実	は	と	て	も	大	変	な	思	い	を	し	て
い	る	の	で	は	な	い	か	と	思	い	ま	し	た
	耳	栓	を	し	て、	耳	の	不	自	由	さ	の	体
験	も	し	ま	し	た。	ど	れ	だ	け	耳	が	聞	こ
え	に	く	く	な	る	の	か	が	よ	く	わ	か	り
し	た。	ぼ	く	の	家	に	は	曾	祖	母	が	い	ま
す	か、												
「	聞	こ	え	な	い	か	ら、	も	う	一	回	言	っ
て	し。												
と	言	わ	れ	る	こ	と	が	あ	り	ま	し	た。	え
の	と	き、	ぼ	く	は、	つ	い	乱	暴	な	言	い	
方	で	返	し	て	し	ま	う	こ	と	が	あ	っ	た
で	す。	し	か	し、	こ	の	体	験	で	え	ん	な	

返	し	方	を	し	て	し	ま	っ	て	い	た	こ	と	に
反	省	を	し	ま	し	た。								
	ま	た、	腰	を	曲	げ	て、		階	段	の	上	り	
下	り	も	体	験	し	ま	し	た。	視	野	が	狭	く	
な	る	う	え	に、	体	に	重	り	を	つ	け	て	や	
る	こ	と	に	な	り	ま	し	た。	上	り	は	つ	え	
を	使	っ	て	何	と	か	上	れ	た	の	で	す	が、	
下	り	は	と	て	も	こ	わ	か	っ	た	で	す。	な	
せ	な	ら、	い	つ	も	は	難	な	く	下	り	る	こ	
と	が	で	き	る	階	段	で	も、	腰	が	曲	が	り	
重	り	も	あ	る	の	で、	落	ち	そ	う	に	な	っ	
た	り、	転	び	え	う	に	な	っ	た	り	し	た	か	
ら	で	す。												
	こ	れ	り	の	体	験	か	ら、	ぼ	く	は、	こ		
れ	か	ら	宿	社	で	さ	ら	に	バ	リ	ア	フ	リ	ー

化を進めていけばよいと考えまし
 た。階段の上り下りを少なくする
 ようなスロープ、バスなども段差
 のないノン・ステップバスがも
 と増えていけばいいと思います。
 また、お年寄りに優しいというこ
 とは、体の不自由な人に優しいと
 いうことにもつながっていきます。
 例えは、目の不自由な人には音
 の出る信号機をもつと増やせば、
 安心して道路を渡ることかできる
 はずです。そうすることによって、事故
 に合う心配を減らすことができる
 のです。昨年、視覚障がい者の体験
 をしました。が実際に歩いてみると

少しの段差でも怖さがありました。
 次第にそういうことにも慣れるの
 かもしれません。が、困難さはある
 と思います。
 ぼくは、体験を通して、お年寄
 りだけでなく、体の不自由な人も
 大変さがかかえて生活をしてい
 るということがわかりました。少
 ずつバリアフリーの対策はとられ
 ていきますが、まだじゅうぶんとは
 言えません。これがクリアできな
 いうちは、まだ福祉に対する気持
 ちが足りていないというところな
 るのではないでしょう。みんな
 が安心して、安全に暮らすことが

